

ティーチング・ポートフォリオ

日本国際学園大学 経営情報学部 ビジネスデザイン学科
陳祥

教育の責任

科目名	対象 学年	受講 人数*	授業 形態	必修 選択	科目区分 (カリキュラムにおける位置づけ)
留学生日本語 A1②	1	15	講・演	必修	総合教養科目群 (1年次から履修できる教養系科目)
留学生日本語 B1②	1	15	講・演	必修	総合教養科目群 (1年次から履修できる教養系科目)
基礎ゼミ1	1	-	-	必修	入門科目群 (1年次から履修できる入門科目)
日本語リテラシーA⑤	1	15	講・演	必修	入門科目群 (1年次から履修できる入門科目)
日本語リテラシーA④	1	21	講・演	必修	入門科目群 (1年次から履修できる入門科目)
日本語リテラシーA③	1	24	講・演	必修	入門科目群 (1年次から履修できる入門科目)
留学生日本語 A2②	1	15	講・演	必修	総合教養科目群 (1年次から履修できる教養系科目)
留学生日本語 B2②	1	15	講・演	必修	総合教養科目群 (1年次から履修できる教養系科目)
日本語リテラシーB⑤	1	15	講・演	必修	入門科目群 (1年次から履修できる入門科目)
日本語リテラシーB③	1	24	講・演	必修	入門科目群 (1年次から履修できる入門科目)
日本語リテラシーB②留学生	1	15	講・演	必修	入門科目群 (1年次から履修できる入門科目)
日本語リテラシーB③留学生	1	15	講・演	必修	入門科目群 (1年次から履修できる入門科目)
キャリアデザイン A(留学生)	1	41	講・演	必修	進路支援科目群

教育の理念

私の教育理念・目標は、学生が主体的・対話的な学びを通して、自分の言語力、コミュニケーション能力を鍛え、創造的思考力と多角的な視点を身につけられるような教育を行うことである。学生に身につけてほしい能力は下記の通りである。

- 1 コミュニケーション能力：相手の意見や考えを正確に理解したうえで、自分の意見や考えを正確に伝える力。
- 2 創造的思考力：様々な物事への興味に関心を持ち、自分の思考を柔軟に取り入れながら、新しいアイデアを生み出す力。
- 3 多角的な視点：他の視点や異なる考え方から自分の意見や思考を検証し、客観的な視点で物事を捉える力。

教育の方法

授業は、大学生として必要な基礎語学力や入門知識を身につけることを目標とし、学生同士が相互に学び合い、主体的に学習を進める機会を作るため、アクティブ・ラーニングの手法を取り入れる。

講義では、整理した教科書の内容をテキスト化し、それをを用いて説明する。演習では、学生同士が練習課題についてディスカッションする時間を設定する。学生が互いに協力・相談し最終的に課題を完成できるように指導をする。

Google Classroom に講義資料、小テスト、課題などを掲載し、常時学習できる環境を整えるようにする。授業内外で実施する課題を設定し、事前・事後の学修を促し、自分で学習計画を設定してもらう。教員からのコメントや指導、教員と学生の対話からのコメントを共有する。

- 1 事前・事後学習：テキスト内容を指定し、毎回、授業の前後に読んでくる課題を指定して、Google Classroom で課題を提出させる。
- 2 意見の共有：ペア、グループの討論を行って、限られた時間内で意見をまとめてもらい、コミュニケーション能力を鍛える。また、お互いの意見を尊重するように指導している。
- 3 視聴覚教材：テキストで読み、講義で聞いたことについて具体的なイメージがわくよう、画像や動画などを積極的に使用している。

教育の成果 および 今後の目標

これまで実施してきた授業の現状、課題を踏まえて、教育の成果は下記の通りにまとめる。

- 1 : Google Classroom 上の学習環境：学習環境を整えることで、教員と学生を双方向でつなぎながら、学生が主体的に学ぶことができ、教員がより効果的に授業内でアクティブ・ラーニングを実施することができることが分かった。
- 2 学修成果の可視化：学生自身が自らの成長を意識しながら効率的に知識を学んでいくためには、目標や達成度、把握の結果をわかりやすく示す学修成果の可視化も不可欠ことが分かった。また、教員が学生の学修成果をより理解でき、より効果的な指導ができた。
- 3 授業内と授業外活動の繋がり：授業内で学んだことを授業外の活動で実践し、学びを具体化することで、学修効果の質と学修意欲の向上に繋げることができ、活動のフィールドを広げることが可能となったことが分かった。

今後は、より一層アクティブ・ラーニングの効果を上げるため、グループワークなどにおいて、発言が苦手な学生をフォローする体制、学習目的の明確化などが必要である。

参考資料

- 栗田佳代子、吉田墨（2020）「教育活動の振り返りを目的としたティーチング・ポートフォリオ・チャートおよび作成研修の開発と評価」『高等教育開発 1』,pp.19-27,日本高等教育開発協会.
- 小林昭文（2017）『「主体的・対話的で深い学び」をどう実現するか』産業能率大学出版部.
- 佐藤公治（2020）『「アクティブ・ラーニング」は何をめざすか：「主体的、対話的な学び」のあるべき姿を求めて』新曜社.
- 土持ゲーリー法一（2007）『ティーチング・ポートフォリオ：授業改善の秘訣』東信堂.